

## 山梨県総合計画審議会第6回基盤部会 会議録

1 日 時 平成22年8月24日(火) 午後2時～4時

2 場 所 ホテル談露館「アンバー」

3 出席者

・ 委 員 (50音順、敬称略)

芦澤 敏久 市川 三千雄 金井 博 小池 とし子 三枝 清  
清水 純子 白川 太 内藤 悦次 中込 裕 堀内 光一郎  
渡辺 教彦 渡邊 真弓

・ 県 側

知事政策局長 企画県民部次長 観光部次長 県土整備部長  
(事務局：知事政策局) 政策参事 政策主幹

4 傍聴者等の数 なし

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 部会長あいさつ
- (3) 知事政策局長あいさつ
- (4) 議事
- (5) 閉会

6 会議に付した議題 (すべて公開)

- (1) 平成21年度チャレンジ山梨行動計画の実施状況の概要について
- (2) 答申素案について
- (3) その他

7 議事の概要

(1) 議題 (1)～(2)について

議題(1)に関し、資料1により、議題(2)に関し、資料2により事務局から説明した後、次のとおり意見交換を行った。

(委員)

資料2「答申素案」について、この部会を含め、いろいろな意見が反映されていると思うが、素案を作る際の日本における山梨県の責任、役割はどんなものがあるのかという点についてお伺いしたい。

(政策参事)

資料2「答申素案」の組み立てについて、皆様からいただいたご提言を記載し、

それに続いて、社会経済情勢の変化と新たな課題を記載している。山梨県の責任について特定する記載はないが、山梨県の特徴的な点や取り組んできた点について記載されていると考えている。

(委員)

資料2「答申素案」について、山梨県の方向性が見えにくいという印象を持ったため話をさせていただいたが、山梨県の基盤整備について、どのような方向を考えているのか。また、日本の中での山梨県というのはどういう県であるべきなのか、どういう役割を担っているから、今こういうことをやっているという部分をお伺いしたい。

(政策参事)

基本的には、この答申は、委員の皆様のご意見、ご提言をまとめ、県に答申していただく形となっている。チャレンジ山梨行動計画を作る際には、山梨県が向かうべき方向性や山梨県のあるべき姿を考慮しながら計画を策定しており、今度いただく答申も踏まえ、次の計画を策定することとなる。

(委員)

山梨県の進むべき方向等の基本目標や基本理念については、チャレンジ山梨行動計画の中に全て記載されている。この中に、知事の考えが示されており、山梨県が向かうべき方向性はこれで共有が図られると思う。

(委員)

行動計画に掲載されている山梨県の向かうべき方向性に即して、本県の基盤整備のスピードアップを図っていただきたい。基盤整備が進めば、経済効果として、いろいろな効果が出てくると思う。

(委員)

資料2「答申素案」について、記載していただきたい事項は全て網羅されていると思う。

(委員)

資料2「答申素案」について、基盤整備に関する事項は十分記載されていると思う。内容的には十分入っていると思うので、提言を活かし、新しい行動計画を策定していただきたい。

資料1「平成21年度チャレンジ山梨行動計画の実施状況の概要」について、できるだけ費用をかけず効果が大きい方が良く思うので、少ない税金で大きな効果をあげたということが分かるような記載方法としていただきたい。

(委員)

資料1「平成21年度チャレンジ山梨行動計画の実施状況の概要」について、事務局からの説明で、民間資本の導入により、予算執行状況が少なく済んだというご

説明があったが、大変素晴らしいことだと思うので、そのことが分かるよう、表現を少し変えたほうが良いと思う。

(委員)

資料1「平成21年度チャレンジ山梨行動計画の実施状況の概要」について、計画に基づいた予算であり、その執行状況を示したものであるため、予算の執行状況も数値目標の進捗状況も100%に限りなく近づくというのが一番ベターではないかと思う。ただし、その中で、民間企業の参入で予算が少なくて済んだということは本当に評価に値するところだと思う。

政策1の県土を形成する骨格道路網の整備については、多くの予算を使っている割には、進捗状況が芳しくないように見えてしまうので、何か理由付けがあると資料として分かりやすいと思う。

また、国際交流の推進については、外国からの観光客を誘客するため、山梨県の風土や地域ならではの情報を学習できるような勉強会を開催すれば良いと思う。観光客のリピーターも増え、地域活性化につながると思う。

(県土整備部長)

政策1の県土を形成する骨格道路網の整備については、中部横断自動車道を始めとした幹線道路に集中的に予算を使っているのが実情であり、このことが影響していると考えている。そういった中、主要渋滞ポイントの解消を進めており、平成21年度の現況値が51.1%と低くなっているが、今年度2箇所の渋滞ポイントの解消が図られる予定である。一つは愛宕町下条線の開通による千塚交差点の渋滞解消。もう一つが、都留バイパスの完成による国道139号の渋滞解消であり、着実に事業の進捗を図っている。

(委員)

資料1「平成21年度チャレンジ山梨行動計画の実施状況の概要」に関して、事業の成果が分かりやすいような表現としていただくとともに、進捗状況から着実に計画を進めていることが読み取れるので、計画を継続して実行していただきたい。

(2) その他

事務局から今後の審議日程について説明し、了承を得た。